

2014年3月期 第2四半期連結決算ハイライト

阪和興業株式会社

(単位：億円 億円未満切捨て)

2014年3月期 第2四半期決算の概要

・本年度第2四半期決算は、石油化成品事業や鉄鋼事業での増収や子会社の新規連結などにより、売上高は前年同期比8%増の7,907億円となりました。また、四半期純利益は市況の回復による採算改善や特別損失の減少などにより、37億円となりました。

・中間配当は6円とし、期末配当見込み6円と合わせて、年間配当は12円を予定しております。

経営成績	当第2四半期 (累計)	前第2四半期 (累計)	前年同期比		主な要因
			増減	増減率	
売上高	7,907	7,355	552	8%	<p>(売上高) 石油化成品や鉄鋼事業における商品市況の持ち直しと販売数量の増加が寄与した他、子会社の新規連結などにより、前年同期比8%の増加となった。</p> <p>(販管費) 前年同期比で11%17億円の増加。その内、新規連結した子会社影響は約4億円。人件費は約8億円(内、新規連結子会社分約2億円)の増加。大きな貸倒は未発生も、海外向けの滞留債権への引当処理などにより、貸倒引当金繰入が約3億円発生。</p> <p>(営業外損益) 営業外収入は為替差益の増加などにより、27%の増加。営業外費用は手数料の減少や前年同期の大阪本社移転費用がなくなったことから、9%の減少となった。</p> <p>(特別損益) 海外子会社や関連会社株式の減損による投資有価証券評価損約2億円を計上した。</p>
売上総利益	243	206	37	18%	
販管費	173	156	17	11%	
営業利益	70	50	20	40%	
営業外収益	16	12	4	27%	
営業外費用	19	21	△2	△9%	
経常利益	67	42	25	61%	
特別利益	—	—	—	—	
特別損失	2	43	△41	△94%	
税引前当期純利益	64	△1	66	—	
法人税等	26	△0	26	—	
少数株主損益	0	△0	0	—	
当期純利益	37	△0	38	—	
E P S	18.30円	△0.42円	18.72円	—	
当期包括利益	127	△18	146	—	

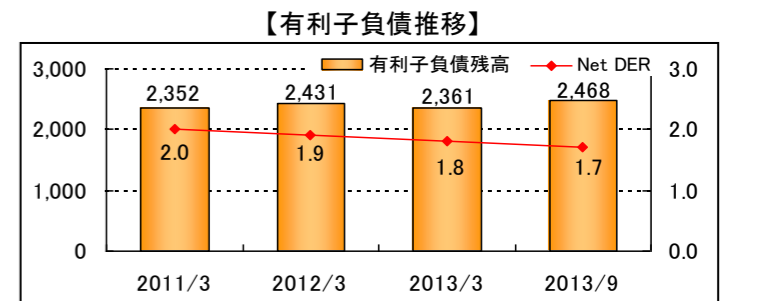
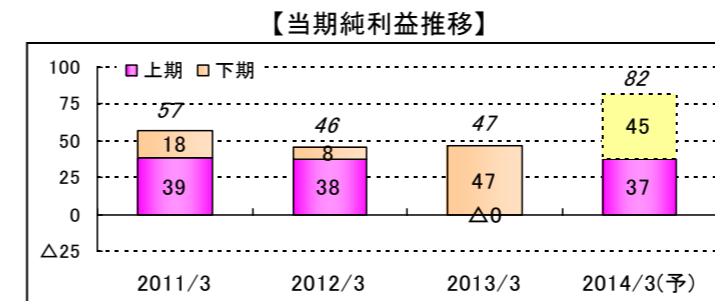
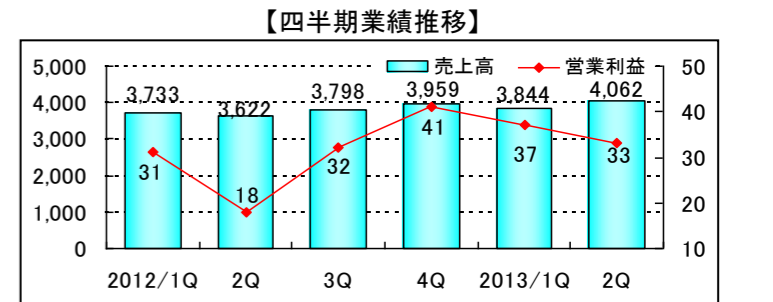
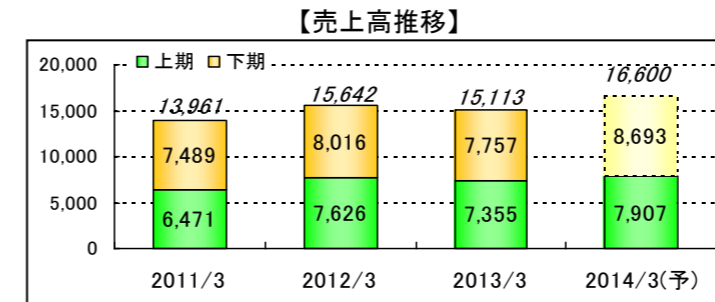
財政状態	当第2四半期末	前期末	前期比		主な要因
			増減	増減率	
総資産	5,764	5,529	235	4%	<p>(総資産) 保有する上場投資有価証券の価格上昇や新規連結子会社のたな卸資産が加算されたことなどにより、前期末比4%の増加となった。 たな卸資産 1,055億円(前期末比+9%)</p>
(流動資産)	4,440	4,353	87	2%	
(固定資産)	1,323	1,176	147	13%	
負債	4,461	4,322	139	3%	<p>(負債) 短期借入金の増加などにより、前期末比3%の増加。有利子負債は5%増加となったが、ネットDERは1.7倍に改善した。</p>
(グロス有利子負債)	2,468	2,361	107	5%	
(ネット有利子負債)	2,196	2,128	68	3%	
Net DER	1.7倍	1.8倍	△0.1倍	△6%	
純資産	1,303	1,206	97	8%	<p>(純資産) その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の増加などにより、前期末比8%増加少した。自己資本比率は22.1%に若干改善した。</p>
(株主資本)	1,177	1,170	7	1%	
(その他の包括利益累計額)	99	11	88	773%	
(少数株主持分)	25	24	1	4%	
B P S	616.51円	570.50円	46.01円	8%	
自己資本	1,277	1,182	95	8%	
自己資本比率	22.1%	21.4%	0.7pt	—	

キャッシュ・フロー	当第2四半期 (累計)	前第2四半期 (累計)	前年同期比		主な要因
			増減	増減率	
営業活動によるCF	34	138	△104	△75%	<p>(営業CF) 事業収入が運転資金の増加を吸収し、+34億円</p> <p>(投資CF) 投資有価証券の取得などにより、△37億円</p> <p>(財務CF) 短期借入金の増加などにより、+22億円</p>
投資活動によるCF	△37	△25	△12	46%	
財務活動によるCF	22	△155	177	—	
現金及び現金同等物	270	193	77	40%	

セグメントの状況	売上高			セグメント利益(経常利益)			主な要因
	当第2四半期	前第2四半期	増減率	当第2四半期	前第2四半期	増減率	
鉄鋼	3,791	3,556	7%	60	39	54%	<p>(鉄鋼) 製造業向けが堅調な中で、建設向けも民間投資、復興・復旧・インフラ分野で活況に。鋼材市況も持ち直したことから、店売り採算が改善。</p> <p>(金属原料) ステンレス需要の低迷により、市況、需要ともに軟調な推移に。販売の停滞と為替差益の減少が収益を下押しした。</p> <p>(非鉄金属) 国際市況は弱含みも円安により円貨額は上昇。貴金属屑の拡販やアルミスクラップ販売の採算改善が収益に寄与した。</p> <p>(食品) 国内需要は低調推移。円安への転換により、サケ・エビなどの価格が反転・上昇し、採算が改善。</p> <p>(石油・化成品) 原油市況は徐々に切り上がり、製品市況を押し上げ。船用石油の拡販が収益に寄与した。</p>
金属原料	469	506	△7%	11	12	△9%	
非鉄金属	373	327	14%	6	3	75%	
食品	393	461	△15%	7	4	98%	
石油・化成品	2,309	2,042	13%	8	3	154%	
報告セグメント計	7,337	6,893	6%	94	63	51%	
その他	988	826	20%	△1	6	△128%	
合計	8,325	7,720	8%	93	69	33%	
調整額	△418	△364	△15%	△25	△27	8%	
PL計上額	7,907	7,355	8%	67	42	61%	

トピックス

- ・6月 満期5年の普通社債100億円を発行
- ・10月 鋼材卸売業の三栄金属(株)を子会社化



通期の見通し	通期業績予想	前期実績	対前期増減率
売上高	16,600	15,113	10%
営業利益	158	124	27%
経常利益	140	88	58%
当期純利益	82	47	74%

配当の状況	前期実績	当期実績	当期予想
中間期	4.00円	6.00円	—
期末	8.00円	—	6.00円
年間配当	12.00円	—	12.00円
配当性向	53%	—	30%